

身近にある自主点検



「自主点検（自己点検）」の目的、重要性については、「一回にわたり言及してきました。

自分で自分を点検・評価するという行動は、簡単ではありません。内容は限定され、その結果は甘い評価になるか、あるいは自虐的に極めて辛い評価に偏ってしまう傾向があります。また結果の信頼性を担保するためには、第三者によるチェックを加えることも望まれます。

難しい自主点検ですが、現在JFグループの制度の中には、自主点検と表現こそしていないものの、実質的に行っている活動があります。それが全国の単協で導入している「新一般監査」であり、またJF信漁連やJF漁連が導入している「内部監査」です。

「新一般監査」は「質問書方式」を採用しています。この監査は事前に監査対象である各単協に質問書を送り、その質問に答え

てもらおうことからスタートします。二二の質問事項は、各単協の内部管理態勢に密接に関わるものです。そして質問に対する回答はYESかNOかの単純なものでなく、内部管理態勢のレベルを具体的に低いレベルから高いレベルの三段階で示し、その中から自分の組織の現時点での管理レベルを選んでもらう形式をとります。もし該当する選択肢がない場合、あるいは回答が何らかの事情でできない場合には第四の選択肢も用意されています。

これらの選択肢の中で、自分の組織はどのレベルに該当するかを考え、また回答の



JF全国監査機構
監査委員長
おのみまさゆき
近江正幸

合理性を立証できる資料として示す書類等を検索することで、各単協は意識せずに自主点検を実施しています。さらに組織外部の漁協監査士の検証（監査）を受けることにより、自主点検の結果について、第三者の目を通し、自分の下したレベル評価の信頼性について保証してもらえます。

点検内容として、新一般監査の質問事項は必ずしも十分ではありません。より広範囲で、深い内容の点検項目、検証手続きを実施する内部監査が望ましいことも事実です。しかし、内部管理態勢に関する現在必要とされている最低限の項目は、新一般監査の中に含まれています。自主点検といっても恐れることはありません、実は既にわれわれの身近で行われています。